



セカンドステージへの出発にあたって

文庫運営委員長 三村浩史

西山文庫の会員の皆さま方、いかがお過ごしでしょうか。すまい・まちづくりの多彩な世界でご活躍のことと拝察いたします。

さて、当文庫は発足してから3年目を迎えております。この間、運営委員の有志を主力として、西山卯三先生の60年にわたる膨大な学術資料の整理およびデータベース化に精力的に取り組んできました。仕事がすすむにつれて、大正・昭和という近代から現代への時代を、住宅・生活空間の生涯学徒として激しく生きぬかれた先生の研究世界と人間像を語る資料の全容が大略把握できるようになりました。西山先生の場合、学術論文をはじめ評論にいたるフォーマルな学論の多くはすでに自ら公刊されていますが、今回は、それらのバックグラウンドとなった研究ノートや未発表原稿を含む、実に幅広い分野と時代にわたる学術資料が見いだされました。さらにまた、マンガや劇作シナリオ、生涯にわたる日記やスケッチ紀行、フィルムなどの映像資料、ビラやパンフ等にいたるまでのコレクションもほぼ整理できました。これらが示す多才な先生の人間像は‘住まいの南方熊楠翁’というにふさわしいかもしれません。

当文庫が、このような第一段階の目標をほぼ達成することができましたのは、創設基金を寄せてくださり、その後もなにかとご支援を賜った会員の皆さま方の御陰とあらためて御礼申し上げます。



さて、きたる9月26日に開催いたします第三回総会にあたり、運営委員会はセカンドステージにおける文庫活動の方針について、つぎのような目標を提案します。

第一に、持続的な会費会員制への移行です。貴重な資料を散逸させないためという立上げ期の寄金会員制から、今後の持続的な活動に対応するために、この段階から年会費会員制へ移行する案です。現会員の方々とともに当文庫の活動に関心をお持ちの方々にもさらに幅広く呼

びかけます。

第二に、会員参加による研究活動の本格的な展開です。さしあたり二つの研究プロジェクト、「昭和20年代を中心とする住宅計画の史的研究」と「居住のライフスタイル-未来予測と構想」をスタートさせます。前者は、先生の住宅営団時代をふくむ戦中・戦後の調査資料、ノート、日記、交友録などから世界的にみてもユニークな日本の住宅計画論と戦後の住生活改革を導いた過程を明らかにします。後者は、西山先生が主導してまとめられた『21世紀の設計』（約50部門 200人の専門家が描いた未来予測像、1970年）の30年目の現在、ポジティブな検証を通じて、人間的居住の姿の近未来を再構想するものです。この他さらに興味あるテーマでの研究会も想定しており、さまざまな形で会員に参加していただける場づくりをめざします。



第三に、すまい・まちづくりのNPOへの道を求めます。すでにセミナーやシンポの開催、『安治川物語』の出版などをすすめてきましたが、さらに会報発行、研究会の開催、情報サービス、すまい・まちづくり相談や研究受託とそれらへの会員の参画、未発表資料の編集と順次出版など、会員および市民への専門的サービスをいっそう充実強化します。活動資金としましては、会費、委託研究費、出版事業収入、寄付金等の収入を予定していますが、今回、㈱積水ハウスから寄せられた賛助金により研究活動にはずみがつき、かつ事務局員1名を配置できることになりました。

会員のみならずとともにさらに力を合わせて、将来展望につながるセカンドステージの充実をめざしたく存じます。

第三回総会・記念講演会・パーティー

開催日 9月26日(土)

総会 14:00～

講演会 15:00～

講師 木原勝彬 氏

演題 すまい・まちづくりNPOの可能性

パーティー 17:00～